



東北大学

Newsletter

TOHOKU UNIVERSITY Diversity, Equity & Inclusion NEWS



東北大学DEI推進センター

Vol. **3**
2024 Oct

「DEI」とは、「Diversity(多様性)」「Equity & Inclusion(公平性と包括性)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指しています。

Headline News

澤柳フェロー ランチミーティング ～富永 悌二 新総長から女性研究者へのメッセージ～の開催



富永総長と女性研究者たち

24年度第1回目の澤柳フェローランチミーティングが 富永新総長を迎え、盛大に行われました。

5年ぶりの対面で開催されたランチミーティングでは、本学執行部の女性役員(小谷元子理事、杉本亜砂子理事、土井美和子理事、牛尾陽子監事、大隅典子副学長)全員が参加、他に19名の澤柳フェローも参加して若手の女性研究者たちと交流を深めました。

富永総長には女性研究者へのメッセージの中で、人事における女性採用3分の1戦略を維持しつつ、子育てや介護中の研究者と職員に対する両立支援の充実化に強い意志表明をしていただきました。参加者たちは、用意されたランチを食べながら互いに情報交換をしたり、総長と談話したりと対面での澤柳フェローランチミーティング再開を楽しんでいました。



富永総長との交流の様子

＊澤柳フェロー制度は、本学の女性教授のうち、人物ならびに学識においてすぐれ、女性研究者のロールモデルとして相応しい役割を担う研究者に「澤柳フェロー」の称号を付与し、その活動を支援することをもって本学の若手女性研究者及び女子学生の育成・男女共同参画の推進に資することを目的とした制度であります。

制度創設初年度だった2009年には21名だった澤柳フェローは、2024年現在120名となりました。



澤柳フェローの先生方



総長からのメッセージ

「誰もが輝ける「国際卓越研究大学」へ」

2024年4月1日に新総長として就任しました富永悌二総長より、DEI推進への意気込みを表明していただきました。富永総長からのメッセージを皆様にお届けします。



開催日：2024年6月11日(火)12:00-13:00

会場：片平さくらホール1階ラウンジ(片平キャンパス)

対象：本学女性研究者(教授、准教授、助教、助手、ポスドク(教育研究支援者など)、その他教職員および大学院生)

参加人数：72名(関係者含む)



2023年度

第7回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者コラム

詳細は
QRコードより
閲覧可能です。

東北大学の各研究機関で活躍する女性研究者として、東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」を受賞した4名の先生をご紹介します。自身の研究内容や今後の研究の展望などを紹介することで、分野を越えた女性研究者のネットワーク拡大の契機となることを目指しています。※役職・所属等は2024年3月時点のものです。



人文・社会科学分野

大澤 絢子

国際文化研究科 特任研究員/
日本学術振興会 特別研究員(PD)

業績名

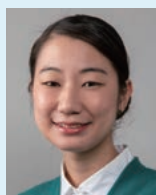
「近現代日本における人格形成と
人物表象に関する総合的研究」

研究内容

「自己とは何か」、「いかに生きるべきか」といった問いは、時代や地域、性別、宗教を問わず人間の持つ根源的課題と言えるでしょう。日本において、そのような問いは主として、宗教や哲学、道徳、学問、文学などを通して追究されてきました。自己をめぐる問いとして私が研究しているのが、「自分をいかに磨き、高めるか」という self-cultivation = 修養の問題です。日本では明治以降、西洋との関わりを通して修養という考え方が浸透し、人々は模範的とされる人物の生き方を真似、人格向上に努めてきました。では、どんな人物が理想とされ、その人物像はいかに形成されてきたのか、男性と女性はそれぞれどんな「自己」を目指し、それは現代とどう関わるのか。修養の男性性/女性性が今の研究テーマです。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

修養が重視するのは、自助努力であり自己実現です。そこには楽しさや満足感、達成感もあるでしょう。しかし、努力と結果が過剰に結びつけられてしまえば、「成功できないのは、本人の努力が足りないから」という短絡的な思考に陥りかねません。努力しても結果に繋がらなかったり、自助できる環境になかったりといった、一人ひとりが抱える困難さは、外からは見えません。SNSなどで溢れる自分磨きや理想像を追い求め、疲弊してしまうこともあるでしょう。結果だけでなくその背後にも光を当てられる心、時には運に任せる柔軟な心を持ちながら、自分を磨き減らすことなく日々を過ごしてもらえたらと思います(私もそうありたいです)。



農学・生命科学分野

小松 愛乃

生命科学研究所 助教

業績名

「植物の栄養繁殖を調節する
分子メカニズムの研究」

研究内容

多くの植物は、種子で増えるだけでなく、体の一部からクローンを作る「栄養繁殖」によっても増殖します。身近なコケ植物であるゼンゴケは、無性芽と呼ばれるクローンを多数形成して、それぞれが新たな個体に成長して多数の無性芽を形成するというサイクルを繰り返して驚異的に増殖します。栄養繁殖の程度は環境に合わせて調節されますが、栄養繁殖を最適化する仕組みについてはあまりよくわかっていませんでした。これまでに、ゼンゴケの無性芽形成を制御する植物ホルモンの機能を発見し、この植物ホルモンが環境情報に合わせて栄養繁殖の程度を調節する仕組みについて解析を進めています。どんどん増えるゼンゴケをモデルに、植物の旺盛な増殖力を支える機構の解明に取り組んでいます。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

いろんな人や物事との出会いを大切にしてほしいと思います。振り返ってみると、あの時あの場所に行ったから、あの人に会ったから、その後の方向性が決まったという経験をこれまでに何度もしてきました。たくさんのお出会いに支えられて今の自分があると感じています。対面でのコミュニケーションが少なくなってしまう時期もありましたが、いろんな場所に行っている人に出会うことで得られるものはとても貴重です。ぜひ広い世界に飛び出してみてください！



理学・工学分野

焼野 藍子

流体科学研究所 助教

業績名

「高速輸送機器高性能化のための
流れ機構解明と制御の研究」

研究内容

リニア新幹線や超音速機、電動航空機などの次世代高速輸送機器は、省エネルギー、カーボンニュートラル化へのさらなる厳しい要求、製造技術の向上から、新技術開発の機運が再び高まっており、これまで影響を無視されてきた現象が問題になりつつあります。本研究では、未知現象の解明、新しい理論モデルの構築、実験データを用いた妥当性の検証を行うことで、ナノ(気体分子運動)~マイクロ(乱流渦)~マクロ(輸送機器)の複数層をまたぐ超層の流体科学を確立し、次世代輸送機器革新へ繋げていく取り組みを行っています。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

わたしはこれまで、機械工学系、航空宇宙系、環境系、と様々な研究分野を経験し、幅広い視野を養うことができました。また産官学の枠組みを超えた交流により、自分が考えてもいなかったところに応用ができることに気付かされたりすることもありました。誰も思いつかないようなニーズ&シーズを見つけたら、周りの人達を気にし過ぎずそれを自分のオリジナリティにしましょう。そしてやるべきことを兀々とやっていくことで、見ていて評価して下さる人が必ず出てきて、自ずと道を開拓できると思います。



医歯薬学・保健分野

小川 亜希子

加齢医学研究所
モドミクス医学分野 助教

業績名

「エピトランスクリプトームによる
生体代謝研究」

研究内容

私たちの体内にあるRNAには、最近、様々な化学修飾が施されていることがわかってきました。これらの修飾を受けたRNAは、役目を終えた後もその修飾を持ったまま血液や尿、目の中の液体(眼房水)などに分泌されます。これらの修飾されたRNA由来の因子の中には、体の中でシグナルを伝える重要な役割を果たすものがあります。私はこれらのRNA由来の修飾因子がどのようにしてヒトの体の機能や病態に影響を与えるのかを調べる研究を行っています。この研究により、目の病気の新しい治療法や予防法の発見に繋がることを期待しています。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

後輩の皆さんへ、まずは探求心を大切にしてください。研究の道は決して平坦ではなく、多くの困難や挫折が待ち受けています。しかし、その先で出会える新しい発見や喜びにはかけがえのない価値があります。失敗を恐れず、挑戦することを忘れないでください。また、孤独にならず、周囲のサポートを大切にすることも重要です。仲間や指導者との協力が、困難を乗り越える力となります。そして、常に自分を磨き続ける姿勢を持ち続けてください。未来の科学者としての皆さんの成長と活躍を心から応援しています。共に科学の未知なる世界を切り開いていきましょう。



第10回澤柳記念DEI賞 受賞講演会

*Diversity, Equity & Inclusion: DEI=多様性、公正性、包摂性

日時 2024年3月23日(土) 受賞講演会/13:00-15:00 交流会/15:00-16:00 会場 ハイブリッド開催(オンライン:Zoom 会場:片平北門会館2階 エスパス)

東北大学は初代総長であった澤柳政太郎により打ち出された「門戸開放」という理念のもと、1913年(大正2年)に全国に先駆けて女子に帝国大学の門戸を開きました。澤柳記念 DEI賞(第9回までは澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞)はこの初代総長の名にちなんでいます。本賞は東北大学内外に関わらず、アカデミア及び社会におけるジェンダー公正性の推進を含んだダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン*の推進を目指す取組みに多大な貢献をされた方々を顕彰し、その一助となることを目的としています。当日は、第10回「澤柳記念DEI賞」の受賞者である河野 銀子 氏(九州大学男女共同参画推進室教授)より、「科学技術・教育分野のジェンダー平等に向けて」の講演を、また「澤柳記念DEI奨励賞」の張 蕊 氏(東北大学国際文化研究科 博士後期課程)の研究内容報告と小島遊 友希 氏、白木 滯 氏(北海道大学LGBTQ+サークル 虹の集い)による活動報告がありました。対面とオンラインを合わせて59名(関係者含む)の方が参加しました。講演会後には、受賞者と会場参加者との交流会を行いました。



1段目左より、張 蕊 氏、河野 銀子 氏、大隅 典子 副学長、小島遊 友希 氏、白木 滯 氏



◆「澤柳記念DEI賞」

河野 銀子 氏(九州大学男女共同参画推進室教授・(受賞当時)山形大学学術研究院教授)
「科学技術・教育分野のジェンダー平等に向けて」

◆「澤柳記念DEI奨励賞」

張 蕊 氏(東北大学国際文化研究科 博士後期課程)
「周作人の女性解放運動の体系化に向けた研究 一生涯にわたる言論運動とそれを支えた国際的知見の所在」

小島遊 友希 氏、白木 滯 氏(北海道大学LGBTQ+サークル 虹の集い)
「セクシュアルマイノリティへの理解促進および当事者の居場所づくり」

※役職・所属等は2024年3月時点のものです。



TUMUG オンラインランチミーティング

TUMUG Online Lunch Meetingは、2020年4月よりスタートし、以後東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目的に定期的実施されています。今年度前半は、5月と7月に開催され、各回30~40名前後の参加がありました。

5月に開催された第32回目は、4月にDEI推進センターに着任した2人の先生方から、着任の挨拶と自己紹介を兼ねたご自身の研究について発表いただきました。

白井 恵美子先生(DEI推進センター 教授(クロスアポイントメント)/一橋大学経済研究所 教授)・
大澤 絢子先生(DEI推進センター 助教)



7月に開催された第33回目は、2024年度本学に着任された理系の新任教員の方々4名より、自己紹介を兼ねたご自身の研究について発表いただきました。

山本 詩子 准教授(情報科学研究科)・宇野 裕美 准教授(生命科学研究科)・亀岡 笑 准教授(農学研究科)・関根 久子 教授(農学研究科)

これからもオンラインランチミーティングを継続し、ネットワークを広げていきたいと思っています。多くの方の参加をお待ちしております。



次世代育成

2024年度 第1回・第2回TUMUG Café online科研費セミナー

開催報告



中谷 友樹 教授



青木 洋子 教授

女性研究者を対象とした科研費セミナーをオンラインで開催しました。第1回目は中谷 友樹 教授(JSPS学術システム研究センター 専門研究員(人文学専門調査班)、環境科学研究科)、第2回目は青木 洋子 教授(JSPS学術システム研究センター 主任研究員(医歯薬学専門調査班)、医学系研究科)を講師にお迎えし、科研費の仕組みや今年の変更点、そして採択に向けて書き方のコツなどについて説明がありました。第2回目は、オブザーバーとして北川 尚美 教授(JSPS学術システム研究センター 専門研究員(工学系科学専門調査班)、工学研究科)、伊賀 由佳 教授(JSPS学術システム研究センター 専門研究員(工学系科学専門調査班)、工学研究科)も参加され、補足説明とアドバイスを行いました。第1回目は人文・社会科学系の学内女性研究者を中心に計34名、第2回目は生物・理工系の学内女性研究者を中心に26名の方々にご参加いただきました。

開催日：第1回(人文・社会科学系)7月23日(火)/第2回(生物・理工系)8月9日(金)12:00-13:00

開催方法：オンライン(Zoom) 対象：女性研究者 参加人数：第1回34名、第2回26名(関係者含む)



女性リーダー育成

女子学生交流会 - 米国の半導体企業から学ぶDEI推進 -

開催報告

6月18日(火)、東北大学DEI推進センターと工学系女性研究者支援推進室(ALiCE)の合同で「米国の半導体企業から学ぶDEI推進」をテーマに女子学生交流会を開催しました。学生と教職員合わせて34名が参加しました。

開催日：2024年6月18日(火)15:00-17:00

会場：サイエンスキャンパスホールホワイエ(青葉山東キャンパス)

講師：青砥 なほみ 教授(広島大学 半導体産業技術研究所 特命教授、
東北大学 国際集積エレクトロニクス研究開発センター 特任教授(客員))
堤 美帆 氏(マイクロン財団)

対象：本学の学部生、大学院生、教職員

主催：東北大学DEI推進センター・工学系女性研究者育成支援推進室(ALiCE)

参加人数：34名(関係者含む)

ALiCEのWEBサイトに開催報告が掲載されています。ぜひご覧ください。





2024年度

サイエンス・アンバサダー(SA)紹介と活動報告

サイエンス・アンバサダー(SA)は、小中高校生に対して科学(自然科学・人文科学・社会科学)の魅力を伝えつつ、身近なロールモデルとなることを通じて次世代の研究者を育成することを目的として2006年から2008年に実施された科学技術振興調整費「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」で誕生した女子大学院生(性自認(心の性)が女性の方も含む)のグループです。毎年、学内で公募され、採用者は総長によって任命を受けます。

[6/8] 2024年度SAオリエンテーション

2024年度に任命された東北大学サイエンス・アンバサダー48名(ボランティア2名含む)を対象に、任命式・オリエンテーションを実施しました。(新規採用および欠席者は別日にて実施)。オリエンテーション後にはSAの皆さんと教員やスタッフとの交流会が執り行われ、活発な情報交換が行われました。意欲溢れるSAの皆さんと大変有意義で楽しい時間を過ごしました。今後もSAの意欲的な活動にご注目ください。

会場 東北大学付属図書館1階多目的室



[7/30] サイエンス・アンバサダーと一緒に考える [7/31] 「研究者ってなに？」～SAオープンキャンパス編～

東北大学オープンキャンパス2024が、7月30日、31日の2日間、対面で開催されました。第1部は女性研究者とサイエンス・アンバサダーの研究紹介が行われ、第2部では、学部ポスターでグルーブトークを行いました。延べ人数469名(30日243名、31日226名)。今年は、学部生の協力もあり、来場した高校生の皆さんとの具体的な進路相談やグルーブトークができました。

会場 東北大学 理学研究科合同A棟 共通講義室(205号室・303号室)



[8/7] 「女子大生の日」記念 メタバースでオープンキャンパス ～なりたい自分になる

東北大学初代総長澤柳政太郎により打ち出された「門戸開放」という理念のもと、1913年(大正2年)8月21日、全国に先駆けて女子に東北帝国大学(現・東北大学)の門戸を開きました。そして、2020年、東北大学はこの「8月21日」を「女子大生の日」として登録しました。毎年「女子大生の日」を記念したイベントを行い、今年は「メタバースでオープンキャンパス～なりたい自分になる～」を8月7日に開催しました。

参加者は、“なりたい”アバターで参加し、SAの研究発表を聴いたり、個別に進路相談等の交流を行ったりしました。メタバース空間で“なりたい”自分の未来を見つけられたイベントとなりました。29名(関係者含む)の方が参加しました。

会場 メタバース空間(オンライン)

共催 DNP(大日本印刷株式会社)・株式会社ハコスコ



[8/20] 科学イベント「楽しい理科のはなし2024」

河北新報社、東京エレクトロン宮城の主催による「楽しい理科のはなし2024」が5年ぶりに開催され、サイエンス・アンバサダーが出展しました。今回は、「オレンジパワーでスタンプをつくろう」「キラキラへんこう万華鏡」「ピカピカひかるLEDカードをつくろう」「エコマイクをつくろう～音のふしぎ～」の4つの実験を実施しました。

当日は、約1,200名の子供達に参加し、喜んだり驚いたりする親子の笑顔があふれ、沢山の科学のふしぎを体験しました。

会場 東京エレクトロンホール宮城 6F





DEI推進センターに臼井恵美子教授、大澤絢子助教が着任しました

新年度、DEI推進センターに臼井 恵美子先生(DEI推進センター 教授/一橋大学経済研究所 教授)、大澤 絢子先生(DEI推進センター 助教)が着任しました。

臼井恵美子先生は、労働経済学、家族の経済学・中高生の就業に関する研究を専門とされており。男女の職域格差や人々のキャリア経路の分析に携わってこられた経験から、DEI推進センターが隔年に行う「DEI推進および研究環境アンケート調査」の推進にご協力いただきます。大澤絢子先生は、本学の若手女性研究者賞である第7回紫千代萩賞の受賞者でもあります。

■大澤絢子先生のコメント

本年度より助教として着任しました大澤絢子(おおさわ あやこ)と申します。社会学、思想史を専門としています。大学卒業後に一般企業に就業した後、多くの方々から支えていただきながら研究者の道を進んできました。研究テーマとしている修養は、一人ひとりがよりよい自己や生き方を目指すというポジティブな考え方です。本学では、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン(DEI)推進に向けて、誰もが属性や置かれた環境によって左右されることなく、自分らしく日常を送り、スキルアップや出産・子育て・介護の両立などができるような支援と活動に努めてまいります。



DEI推進コラム

男女が異なる職業領域選ぶ理由とは？

本年4月、東北大学DEI推進センターの特任教授に着任しました(本務は一橋大学経済研究所教授)。私は労働経済の研究をしています。特に関心を持っているテーマは、経済社会のさまざまな分野で見られる男女の職域分離格差の要因を探り、それらの格差を解消するための有効な政策を提言することです。

最近の研究で、医師の診療科選択に焦点を当てて分析を行いました。女性医師と男性医師では、それぞれ異なる診療科を選ぶ傾向があります。男性医師の比率が高い診療科としては外科、泌尿器科、整形外科などがあり、産婦人科、眼科、小児科などでは女性医師の比率が高くなっています。2004年に導入された新医師臨床研修制度の「スーパーローテーション研修」では、初期臨床研修医として外科など7つの診療科での経験が必修となりました。この制度変更の結果、女性医師が外科系診療科を選択する割合が増えました。しかし、女性医師は、外科系診療科の中でも、労働時間が比較的短い泌尿器科や、乳がんの治療をする乳腺外科に集まっています。一方で、肉体的・身体的要求度が高いとされる整形外科には進出していませんでした。このような診療科選択の男女差を縮小するためには、外科を必修とするだけでなく、労働時間などを含めた働き方の見直しが必要です。併せて、興味と関心を持つ診療科が男性医師と女性医師とで異なることを

理解することも重要であることがわかりました。

また、他のテーマとしては、大学の学部選択における男女の違いにも関心を持っています。日本では多くの場合、高校生の段階で大学の学部が決定されます。東京都立進学指導重点校の生徒と保護者を対象としたアンケート調査をしたところ、すでに高校1年生の段階で、男子生徒に比べて女子生徒は理工系への進学を考えていないことがわかりました。

加えて、小中学生の保護者を対象にして、子どもを理科実験教室に通わせたいかどうかを問うアンケート調査を行ったところ、父親が理工系の仕事に従事している場合や、子どもが男子である場合、さらには、将来は子どもが理工系分野に進学し、大学院まで進むことを期待している場合に、理科実験教室に通わせたいという意向が強いことがわかりました。高校生の女子生徒が理工系分野に関心をもつようにするためには、小中学校の公教育において充実した理科教育を広く提供することが重要だと思います。これらの高校生の進路選択と小中学生の理科実験教室のアンケートからの分析については、12月5日に(木)開催するDEI推進センターのセミナーで報告させていただきます。皆さまのご参加をお待ちしております。有効な政策について議論を深めていければと思います。

臼井 恵美子

(DEI推進センター 教授
(クロスアポイントメント)/
一橋大学経済研究所 教授)



DEI推進センター主催全学教育科目に新たに「ジェンダード・イノベーション入門」講座が加わりました

DEI推進センターは、全学教育授業として「ジェンダー共創社会」「インクルージョン社会」を運用しています。それに加え、今年度後期からは新たに「ジェンダード・イノベーション入門」が単位取得科目になりました。「ジェンダード・イノベーション入門」は、東大とお茶大との三大学連携授業として昨年度も実施しましたが、今年度は、2単位が取得できる全学の集中講義として開講します。授業は、理系・文系分野を横断する8つの座学と7回のグループワークが、オンラインで実施されます。ジェンダード・イノベーションに関連する学界の最新の動きを学べると同時に、東大やお茶大の学生さんとグループ討論ができる貴重な機会となります。奮って受講してください(受講は各大学10名限定、受講希望者が多い場合は抽選となります)。



「インクルージョン社会」の授業の様子

■三大学の教員によるリレー講義

①お茶の水女子大学×GI
「ジェンダード・イノベーション」
石井クツ子

⑤東北大学:情報科学×GI
「心理と脳から考えるフェムテック」
細田千尋

②東京大学:政治学×GI
「民主主義とジェンダー」
前田健太郎

⑥東北大学:看護学×GI
「ケアは女性の役割か」
朝倉京子

③お茶の水女子大学:科学史×GI
「科学史研究からジェンダード・イノベーションへ」
小川真里子(三重大学名誉教授)

⑦お茶の水女子大学:都市建築デザイン学×GI
「公衆トイレから考える都市空間」
藤山真美子

④お茶の水女子大学:健康心理学×GI
「性差に配慮した疾病予防行動とAI技術」
大森美香

⑧東京大学:医学×GI
「医学・健康心理学とジェンダード・イノベーション」
小川純人

東北大学DEIシンポジウム 「ジェンダー・イノベーションが切り拓くDEI」

日時 2024年11月17日(日)13:00~15:45

会場 ハイブリッド開催(会場:東北大学川内キャンパスマルチメディア教育棟2階マルチメディアホール/オンライン:Zoom(ウェビナー))

「門戸開放」の理念を掲げた本学が、前例のない女子学生入学許可を断行してから110年以上が経過しました。本理念は、色あせることなく近年の共同参画推進や女性研究者支援の取組等へと発展しており、東北大学は2022年にDEI推進宣言を発出し、多様性を尊重する大学づくりを加速しています。そういった中で、研究に性差とジェンダーの視点を取り入れることによって新たな発見や革新の可能性を生み出すジェンダー・イノベーションの提唱者であるLonda Schiebinger氏をお招きし、多様性を活かした社会のあり方について議論します。



基調講演

「ジェンダー・イノベーション:科学技術に付加価値を」
Londa Schiebinger氏

パネル討論テーマ 「多様性をイノベーションに活かす」

Londa Schiebinger

スタンフォード大学歴史学科ジョン・L・ハインズ科学史教授
「科学、医学、工学、環境学分野におけるジェンダー・イノベーション」プロジェクト創設者

詳細・お申込みは
こちらから



開催
予定

11月15日(金)「ジェンダー・イノベーション ワークショップ」(共催:仙台市)
講師:Londa Schiebinger 氏

DEIあんしんPROJECT を実施しています



実施報告 「誰もが快適な生理を」

誰もが快適な生理期間を過ごすための取り組みとして、生理用ナプキン(ノンポリマーナプキン)の設置トライアルを実施しました。1か月の使用枚数計は546枚となり、利用者アンケート(回答40人)では、回答者全員が継続を希望する結果となりました。また、東北大学新聞の取材を受けるなど、学内の関心が高いことが分かりました。今後DEI推進センターでは、この結果を報告書にし、大学として生理用ナプキンを常備できるよう働きかけたいと思います。

実施期間 2024年5月13日~6月10日

実施予定 「誰もがあんしんして交流する「DEI Lounge」が10/16水よりOpen!!」

■毎週水曜日 13:00~17:00 国際交流棟1F交流スペース(川内北キャンパス)

学内の女性やマイノリティ、アライ、留学生たちが安心して集まり、意見・情報交換や学習の場としてピアコミュニティの構築を目指すスペースです。定期的にワークショップや上映会など、様々な企画を予定しております。学内でより多くの人のDEIに関する知識向上やマイノリティに関する啓発に役立つことを期待しております。

詳細は
こちらから



TUMUG支援事業・イベント情報

10月

October

10(木) TUMUG
オンラインランチ
ミーティング 第34回

25(金) ベビーシッター
利用料等補助 第2回

11月

November

17(日) 東北大学
DEIシンポジウム

29(金) 仙台Iソントクラブ
東北大学大学院
女子学生国際学会
発表支援事業 後期

(予定) 令和6年度DEI推進
及び研究環境に関する
アンケート調査
(教員向け)の実施

※12月以降のスケジュールは、当センターのWebサイトをご覧ください。

各記事の詳細および当センターの活動予定は、WEBやSNSをご覧ください。



東北大学
ダイバーシティ・エクイティ &
インクルージョン(DEI)
推進センター

TEL 022-217-6092

所在地 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
E-mail dei-center@grp.tohoku.ac.jp
W E B https://dei.tohoku.ac.jp

